

日本熱帯農業学会令和6年度総会並びに第137回講演会

期 日 2025年3月18日(火)・19日(水)
場 所 玉川大学 ELF Study Hall 2015 〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1
事務局 〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1 玉川大学 6号館
運営委員長 小原 廣幸
事務局長 石川 晃士
運営委員 島田 温史、上原 歩、井上 広大
E-mail koharahi@agr.tamagawa.ac.jp (小原：問い合わせ)
ishikawa.k@agr.tamagawa.ac.jp (石川：参加・発表申込)
参加費 一般：6,000円，学生：3,000円

第一日 3月18日(火)

講演会 (9時30分から11時30分) 研究発表 (発表時間12分，質問時間3分)

第一会場 (ELF3階 331教室)

- タンカン用台木カラタチ変異株のクローン増殖
-組織培養による清原1号(仮称)及びヒリュウの増殖の検討-
*水野璃子，山崎旬(玉川大学農学部環境農学科)
- 東京における加温施設栽培条件下での3品種のパッションフルーツの樹体生育および果実品質特性の比較
*森悠斗¹・島田温史¹・浅田真一¹(¹玉川大学農学部)
- フィリピンにおける *Lasiodiplodia theobromae* によるバナナの葉のシガトカ様病害の発生
*原田結衣¹・高田美輝²・野澤俊介²・Reynaldo Valle³・渡辺京子^{1,2}(¹玉川大学大学院農学研究科・²玉川大学農学部・³BaCaDM)
- マダガスカル北西部におけるマンゴー地方品種の名称とその形態的特徴の多様性
*篠村茉璃央¹・ヴンジ ニアイナ アンジアナンテナイナ²(¹京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・²アンタナナリブ大学理学部)
- ケニア共和国ルアンダ・サブカウンティにおける伝統野菜資源アマランサス (*Amaranthus L.*) の遺伝的多様性
*村田歩花¹・Patrick Maundu²・Esther Odera³・Maryiano Keziah¹・森元泰行⁴・入江憲治¹(¹東京農業大学・²KENRIK National museum of Kenya・³County government of Vihiga county・⁴The Alliance of Bioe nal and CIAT)
- キヌアの本葉の赤色発現を制御する自然変異の解析
久篠沙耶子^{1,D2}・西村和紗²・水野信之³・上野まりこ³・竹内直子³・中野龍平³・岩橋優³・小林安文⁴・藤田泰成⁴・白澤健太⁵・平川英樹⁶・安井康夫³・桂圭佑³(¹東京農工大学大学院連合農学研究科・²岡山大学大学院環境生命自然科学研究科・³京都大学大学院農学研究科・⁴国際農林水産業研究センター・⁵かずさDNA研究所・⁶九州大学大学院生物資源科学府)

7. 苦鉄質岩の土壤施用がダイジョ (*Dioscorea alata* L.)の生育に及ぼす影響
*児玉純也¹・玉木陸斗²・Michel Ouyabe²・鈴木伸二¹・岡澤宏¹・志和地弘信¹・関原明³・菊野日出彦² (¹東京農大・²東京農大宮古亜熱帯農場・³理化学研究所環境資源科学研究センター)

8. インドネシア・ボゴール市近郊の水田土壌における有機農業の継続年数と土壌の風化特性および有機物蓄積との関係
菊池絢都¹・浅木直美¹・小松崎将一¹・Liyantono², MF Syuaib²・*坂上伸生¹ (¹茨城大学大学院農学研究科・²ボゴール農科大学農業工学部)

第二会場 (ELF 3階 329 教室)

9. 異なる根系を持つ IR64 同質遺伝子系統の窒素利用
*平田和也¹・坂口仁啓²・長谷川鈴花²・入江満美^{1,2}・入江憲治^{1,2} (¹東京農業大学大学院・²東京農業大学)

10. ミニコアコレクションを用いた沖縄県におけるダイズ秋播種時の環境応答解明
*河西寛太¹・大田優人²・植田小楠²・茅野太紀³・赤嶺光³・諏訪竜一² (¹琉球大学大学院農学研究科・²琉球大学農学部・³琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育センター)

11. 秋植え大豆栄養成長期間短縮対策としての尿素葉面散布
*大田優人¹・河西寛太²・植田小楠¹・茅野太紀³・赤嶺光³・諏訪竜一¹ (¹琉球大学農学部・²琉球大学大学院農学研究科³ 琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育センター)

12. Assessment of antioxidant properties, total phenolic content, and flavonoid levels in different Amaranthus accessions.
Awino Maryiano Keziah Anyango, Kenji Irie Graduate school of Tokyo University of Agriculture

13. Breeding study on heat tolerance ability of leaf mustard (*Brassica juncea* L.)
Tran Thi Ha CHAU*¹, Kenji WAKUI², Yoshida SAKI², Koyo OGAMI¹, Kenji IRIE¹
¹ Tokyo University of Agriculture, Faculty of International Agriculture and Food Studies
² Tokyo University of Agriculture, Faculty of Agriculture

14. Analyzing Genetic Diversity in *Capsicum* spp. Using a Novel Technique: dpMIG-seq
*Claudia F. ORTEGA MORALES¹, Kenji IRIE², Kazusa NISHIMURA³, and Makoto KAWASE⁴
(¹Graduate School of International Food and Agricultural Studies, Tokyo University of Agriculture ²Faculty of International Food and Agricultural Studies, Tokyo University of Agriculture ³Faculty of Environmental, Life, Natural Science and Technology, Okayama University ⁴Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture)

15. 多良間島産ハマダイコンの可能性：利用方法と栽培化の研究
*畑あやめ¹・桑名くるみ¹・玉木陸斗²・吉田沙樹¹・菊野日出彦² (¹東京農業大学農学部・²東京農業大学国際食料情報学部)

16. ベトナム北西部、中山間地の農村開発におけるアグリツーリズムによる野菜栽培効果
*西村美彦¹・グエン ティ クエン²・レオ マニ アン³ (¹名古屋大学・²タイバック大学農林学部・³ソンラ省農業農村開発局)

ポスター発表（11時30分から12時）（ELF3階 廊下）

P01 伝統工芸作物イトバショウの栽培技術「葉打ち」が繊維品質へ及ぼす影響

*仁科春佳¹・上原直子¹・圓岡以紡¹・平良美恵子²・細野高啓³・平田菜乃佳³・諏訪竜一¹
(¹琉球大学農学部・²喜如嘉芭蕉布事業協同組合・³熊本大学理学部)

P02 トルコ、マレーシア、ネパールで収集されたトウガラシの植物遺伝資源の評価

*廣田真夕子¹・根本和洋²・松島憲一²（1.信州大学農学部,2.信州大学学術研究院農学系）

P03 バングラデシュ・タンガイル県におけるドニア（Coriander）の栽培・流通・利用に関するフィールド・ノート

*安藤拓実¹⁾・大西信弘¹⁾・安藤和雄^{1), 2)}

¹⁾ 京都先端科学大学大学院バイオ環境研究科、²⁾ 京都大学東南アジア地域研究研究所

昼休み（12時から13時）

総会及び日本熱帯農業学会学会賞授与式（13時10分から13時50分）（UCH106教室）

- 議事 イ. 令和6年度事業報告
ロ. 令和6年度決算報告
ハ. 令和7年度事業計画案
ニ. 令和7年度予算案
ホ. その他

日本熱帯農業学会学会賞授与式

日本熱帯農業学会学会賞授賞者記念講演（13時55分から14時35分）（UCH106教室）

1) 学会賞奨励賞

業績題目：「タンザニア連合共和国における稲作体系の解明とそれを取り巻く社会的環境」
加藤太（日本大学生物資源科学部）

2) 学会賞学術賞

業績題目：「南九州における熱帯果樹類の安定生産技術に関する栽培生理学的研究」
内野浩二（鹿児島県大隅地域振興局農林水産部）

公開シンポジウム（15時から16時30分）（UCH106教室）

「日本からインドへの農業技術の展開と交流～現地実証を通じたインド進出の仕組みづくり～」

登壇者

農林水産省 輸出・国際局新興地域G 国際交渉官 嶋田光雄様

株式会社国際開発センター 研究員 三嶋あずさ様

メビオール株式会社 代表取締役社長 吉岡浩様

東京計器株式会社 通信制御システムカンパニーセンサ機器部主任 根上聡様

コーディネーター

玉川大学農学部 環境農学科 石川晃士（講演会事務局長）

第二日 3月19日(水)

講演会(第1会場10時から11時15分、第2会場10時から12時)

研究発表(発表時間12分、質問時間3分)

第一会場(ELF3階331教室)

17. パッションフルーツにおける1-ナフタレン酢酸ナトリウムの萌芽抑制効果とその使用時期

*吉松孝宏¹・篠原和孝¹・内野浩二^{1,2}(¹鹿児島県農業開発総合センター・²現:鹿児島県大隅地域振興局農林水産部)

18. 異なる点滴灌水方法を用いたサトウキビ収量および圃場水収支の比較

*渡邊健太(摂南大学農学部)

19. ジベレリン GA₃ の茎葉散布がダイジョ幼植物体の生育に及ぼす影響

西澤 優¹・*遠城道雄¹・金 範求¹・金子拓斗²・濱岡範光³(¹鹿児島大学農学部・²鹿児島大学農林水産学研究科・³九州大学熱帯農学研究センター)

20. アブラヤシプランテーションにおける土地利用と持続可能な管理が温室効果ガス排出収量と土壌および養分循環に及ぼす影響

*犬伏和之^{1,2}、川嶋彩那¹、後田裕¹、金子きらら¹、八島未和²、Ngai Paing TAN³、加藤 拓¹、大島宏行¹、皆川千夏⁴(¹東京農業大学大学院応用生物科学研究科、²千葉大学大学院園芸学研究院、³プトラマレーシア大学農学部、⁴㈱IHI プラント)

21. 沖縄県南大東村における節水・省力型サトウキビスマート灌水システムの普及可能性

* 渡邊健太(摂南大学農学部)

第二会場(ELF3階329教室)

22. グローバル市場の変動とメコンデルタの稲作農家の選択 -ベトナム・アンジャン省の事例から-

*山口哲由¹・Luu Minh Tuan²(¹北星学園大学経済学部・²アンジャン省農業局防疫部)

23. Processes of Producing Rice Fermentation Starters, Wine, and Liquor in Phongsaly and Luang Namtha Provinces, Laos

*Sota YAMAMOTO¹, Ayako SASAKI², Khamla SENGPHAXAYALATH³, and Satoshi YOKOYAMA⁴
(¹International Center for Island Studies, Kagoshima University, ²College of Bioresource Sciences, Nihon University, ³National Agriculture and Forestry Research Institute, Ministry of Agriculture and Forestry, Lao P.D.R., ⁴Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University)

24. ケニア農村地域におけるたんぱく質資源の評価

*赤石裕美恵¹・森元泰行²・武田晃治¹・Patrick Maundu³・入江憲治¹(¹東京農業大学大学院、²バイオバーシティ・インターナショナル-国際熱帯農業センター連合、³ケニア国立博物館)

25. ラオスにおけるハリナシバチ生産物の伝統楽器製作への利用

園江 満(日本大学生物資源科学部)

26. Exploring the Effects of Environmental Factors on the Performance of Industrial Crops

*Aidil Azhar¹, Fitri Audia², Koki Asano^{3, 5}, Lili Dahliani¹, Bregas Budianto⁴, and Hiroshi Ehara⁵
(¹Vocational College, IPB University, ²Politeknik Negeri Subang, ³Chitose Agri Laboratory, ⁴Center for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia Pacific (CCROM - SEAP), IPB University, ⁵International Center for Research and Education in Agriculture, Nagoya University)

27. インドネシアにおける農業生産と土壌の風化特性および有機農業の実践による
土壌炭素動態の変化に関する調査

*菊池絢都¹・浅木直美¹・塩津文隆²・Liyantono³・坂上伸生¹ (¹茨城大学大学院農学研究科・²明治大学農学部・³ボゴール農科大学農業工学部)

28. アセロラや早生樹の植栽と被覆植物やきのこ原木設置との組合せによる傾斜地における
土壌流出抑制効果の評価

*松田大志¹・竹中浩一²・木村健一郎^{2,3}・安西俊彦¹ (¹国際農研熱帯島嶼研究拠点・²国際農研農村開発領域・³農研機構農村工学研究部門)

29. Cut-Soiler Constructed Preferential Shallow Subsurface Drainage: A Sustainable Salinity
Management Technique for Yield Improvement in Saline-arid Lands

*Neha¹, Gajender Yadav² and Onishi Junya¹ (¹Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS), ²Central Soil Salinity Research Institute (ICAR-CSSRI))